

Japan Marketing Academy

マーケティング・リサーチプロジェクト 研究報告会の告知および報告方法に関するガイドライン ver. 5

1. 研究報告会告知

- 報告会の開催は、目的や内容、開催場所等を、1ヶ月前を目安にウェブで告知する。
- 開催場所、時間、参加人数の制限はないが、できるだけ学会員が参加しやすいように配慮すること。
- リーダーが、リサーチプロジェクトの事務局(rp@j-mac.or.jp)宛に掲載希望の3日前(土日祝除く)までに、**リサーチプロジェクト・リーダーから依頼する**。依頼時は、メール本文に以下の文例サンプルに基づいたテキストや、問い合わせ先を記載すること。なお、集客のためにも掲載許可を得たゲストやロゴ、製品などの写真(解像度の良いもの)があることが望ましい。
- 参加申込者には申し込み後すぐに、自動で返信メールが届く。そのメールのコピーが当日の参加証となることを記載している。
- 申込締切は、2日前(土日祝を除く)となる。その翌日、参加名簿(所属、氏名)をリーダー宛に送付する。個人情報となるので、取り扱いには注意のこと。
- リサーチプロジェクト・リーダーおよび企画運営メンバー、講演者、取材のためのメディア関係者は、申込み不要である。

以下の内容を修正しメールにて依頼のこと。

メール件名:「第*回* (リサーチプロジェクト名)募集」**

問い合わせ先: 氏名、メールアドレス、電話番号

(*この情報は参加申し込みされた方への返信メールのみに記載される。電話番号は、会場施設等の番号も可能。)

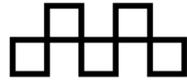
申込み通知メール送信先: メールアドレス (5アドレスまで登録可能)

(*会員が申し込むと、申込者の情報(個人情報を除く)と備考欄での記入事項がメールで、5名の登録アドレス宛に送信されます。なお、誰にも送信不要の場合、その旨を連絡ください。)

【研究報告会】

第1回<ソーシャル・ビジネス研究報告会>

*学会員のみ参加いただけます。入会后、お申込みください。



Japan Marketing Academy

テーマ：「つくらないデザインーコミュニティデザイナー」

報告者：studio-L 代表、京都造形芸術大学 教授 山崎亮氏

人がつながる仕組みをつくる（*目的や内容、ゲスト説明など：200字から400字）

ソーシャル・ビジネス研究会の第一回は、「カンブリア宮殿」（2013.1.13放送）にも出演されたコミュニティデザイナー山崎亮氏をゲストにお迎えします。山崎氏の講演と意見交換を通じて、モノをつくらず、人がつながる仕組みをつくることをデザインすることによって、地域課題を解決することについて理解を深めます。

「つくらないデザイン」は、従来の発想を超えて、新たなビジネス機会創造につながる可能性があります。多様な多数の皆様に参加頂くことによって、コミュニケーションデザインの理解とビジネスへの活用可能性が広がることを楽しみにしています。

<写真挿入>

山崎亮氏 著書、左から中公新書、学芸出版（*写真の説明）

日時：2013年3月14日木曜日 16:30-18:30（受付開始 16:15）（*数字は半角で記入のこと）

場所：流通科学大学 大阪サテライトオフィス会議室

大阪市北区梅田 2-5-25 ハービス OSAKA オフィスタワー8F

（*JR 大阪駅、阪急・阪神・地下鉄梅田駅から徒歩 10 分）

地図 URL

参加費：500 円（*無料も可能だが無断欠席が多くなる。過去、参加費有の場合 1 割、無の場合 4 割という状況）

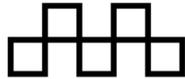
定員：先着 30 名（*システムの関係上、先着のみの対応となる）

応募締切：2013年3月12日火曜日 23:59（*土日祝を除く 2 日前）

- * 報告会は定員制であり、追加募集などの処理が煩雑になるため、キャンセルができないことをご了解ください。
- * 当日は、サイト掲載のため会場の様子を撮影予定です。問題がある場合は、当日、プロジェクトの企画運営メンバーにお伝えください。
- * 終了後、近隣で引き続きゲストを囲んでの懇親会を予定しています（時間は 19:00 開始を予定/ 参加費は 3000 円程度）。参加ご希望の場合、申し込み時に備考欄に記入ください。

（*備考欄は、原則表示しないが、懇親会の参加など事前に確認したい場合に、参加者に回答を依頼できる。なお、必須・任意は選択できる。）

以上の内容をリサーチプロジェクト・リーダーが、メールにて依頼のこと。なお、以下は参考情報（申込者に送られる自動返信メール）。



Japan Marketing Academy

<自動返信メール>

日本マーケティング学会

第1回<ソーシャル・ビジネス研究報告会>2013年3月14日開催のご確認

**** (学会員) 様

いつも大変お世話になります。

このたびは日本マーケティング学会にて、2013年3月14日開催の第1回<ソーシャル・ビジネス研究報告会>に参加のお申込みいただき、まことにありがとうございました。確認メールをお送りいたします。

【受付方法】 お送りしたこのメール 1 頁をプリントアウトしてお持ちいただき、当日受付にてお渡し下さい。

【受付場所】 流通科学大学大阪オフィス

住所：大阪市北区梅田 2-5-25 ハービス O S A K A オフィスタワー 8 F

地図：<http://www.umds.ac.jp/guide/base/tokyo.html>

電話：06-****-*****

【会場】 (同上)

【受付開始】 2013年3月14日(木)16:15～

【スケジュール(予定)】 16:30～18:30

報告者： studio-L 代表、京都造形芸術大学 教授 山崎亮氏

テーマ：「つくらないデザイン –コミュニティデザイナー–」

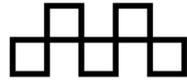
【お問い合わせ】

担当： 廣田章光(近畿大学経営学部教授)

メールアドレス： *****@*****

2. 研究報告会当日

- 当日は、会場入口に案内板などを用意し、会場を分かりやすくすること。
- 参加者が分かりやすい場所に受付を用意すること。



Japan Marketing Academy

- 名簿を印刷して、参加の人数の把握をすること。
- 報告者や会場の写真を多めに撮影のこと。

3. 研究報告会レポート

- 報告会のレポートを、リサーチプロジェクトの事務局(rp@j-mac.or.jp)宛に開催後1週間を目安に必ず報告すること。掲載は受領後、3日後(土日祝除く)となる。
- 報告時は、メール本文に以下の文例サンプルに基づいて報告概要や当日の状況のテキストを記述すること。なお、必ず写真を2枚から4枚(横向き、解像度の良いもの)添付のこと。

以下の内容を修正しメールにて送付のこと。

メール件名:「第*回*** (リサーチプロジェクト名) 報告」

第1回 ソーシャル・ビジネス研究会

テーマ:「つくらないデザイン –コミュニティデザイナー–」

ゲスト: studio-L 代表、京都造形芸術大学教授 山崎 亮 氏

日程 : 2013年3月14日 16:30-18:30

場所 : 流通科学大学 大阪オフィス

【報告会レポート】 (*報告概要や当日の状況: 800字から2000字)

坊主頭のひげ面に白いシャツとチノパンスタイルで登場した山崎さん。いきなり「2時間とこの話だったのでスライドを300枚用意しました」。司会者が1時間の講演でお願いすると、「1時間での話なら街中編と僻地編どちらがいいですか」とフロアに選択を委ねながら、街中編を山崎さんが選択して講演スタート。

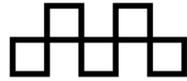
コミュニティデザインという仕事のベースになった、兵庫県立有馬富士公園の地域住民参加型の仕組み、遺跡と地域生活が共生する堺市環濠(かんごう)都市の仕組み、コミュニティデザイナーの肩書きを名乗るきっかけになった鹿児島マルヤガーデンズなどのプロジェクトなどを紹介。写真と図表を使いながら、山崎さんの軽快かつ地域の方々のお笑いエピソードを交えて講演は進む。

<写真2点挿入>

写真左から、ゲストの山崎さん、会場の様子 (***写真の説明**)

活発な質疑の後、石井淳蔵先生と石原武政先生から次のようなコメントを頂く。

「日々の生活の中に生きがいを生みだし、そして地域自体をも再生するこの手法への地域



Japan Marketing Academy

の期待は高い。そして、大学そして学会でコミュニティデザインを活用したい」（石井淳蔵先生）

「地域の参加を促進する必要性をよく指摘されるが、どうすれば参加を促すことができるのかを示して頂いた。人口減少社会を受け売れることに抵抗はあるが、それを受け入れることが必要。そのためにどこまで行ったら下げ止まるのかを示すことが必要になる。さらにその前提で現在の地域や商店街の設計をどのように行うかを考える上で本日のお話しは参考になった」（石原武政先生）

<写真2点挿入>

写真左から、石井淳蔵先生、石原武政先生（*写真の説明）

【報告会を終えて】

「つukらないデザイン」であるコミュニティデザインは、一言で言うと、社会に埋もれる人々が主役になれる場を創ること。主役になると言うことは、個人が地域社会の課題解決につながる状況を目に見える形でうまく創り上げること。講演時に山崎さんは、超長期で眺めると日本の人口が1億二千人存在する「異常な事態」と説明。これから日本社会ではじまる人口減少をにらんで緩やかに社会を運営する仕組みを変えていく上で、少ない資源で広く価値を生み出すこのモデルは、興味深い。

一見、山崎さんのキャラクターでしか実現しないように思いがちだが、コミュニティデザインを進める上で重要なやり取りがあった。コミュニティデザインの仕事には行政との連携が欠かせない。以前、行政にお勤めの参加者から、「(各地区での活動における) 行政との関係について」意見を求められたときの山崎さんの答えに感心させられた。行政への不満や要求が出てくるかと思ったら、「行政と議会との関係、行政の決済の仕組みを理解した上で行動しなければうまくいかない。行政の皆さんは貝のようなもので批判すればするほど閉じてしまう。」の答え。相手を理解し、味方にするための行動の必要性はどの分野でも共通であり、コミュニティデザインを推進する上で重要。今回、聞けなかった「僻地編」もぜひ聞いてみたい。

（プロジェクトリーダー：廣田章光）

以上の内容をメールにて報告のこと。なお、以下は実際の報告ページ。

<http://www.j-mac.or.jp/research-project/1266/>

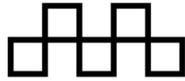
以上

（付則）

平成 25 年 4 月 1 日制定。

平成 26 年 4 月 1 日改正。

平成 29 年 9 月 1 日改定。



Japan Marketing Academy

平成 30 年 2 月 1 日改定。

なお、このガイドライン改定は平成 26 年 4 月 1 日から適用する。